

和歌山県の外来種リスト 貝類

No	目名	種名		カテゴリー	定着段階	外来生物法区分	国リスト区分	評価項目										由来		主な原産地	県内の分布	生息環境	備考	
		和名	学名					生態系被害				分布拡大		重要地域	社会被害		人間による拡散		国外					国内
								競合	交雑	捕食	変異	繁殖	気候		人体	経済産業	利用	付着混入						
1	新生腹足目	シマメノウフネガイ	<i>Crepidula onyx</i> Sowerby, 1814		分布拡大～まん延		その他の総合対策外来種	○	-	-	-	○	○	-	-	○	-	○	-	南北アメリカ大陸太平洋岸	和歌山市～白浜町の県北中部	海岸、内湾	(海産)県下では1974年以降、和歌山市～白浜町までの北～中部の各地で発見されている。サザエ・アカニシ等の食用巻貝の殻に付着して汚損するが、成長等に負の影響を与えるかは不明である。	
2	異足目	サキグロタマツメタ	<i>Laguncula pulchella</i> Benson, 1842	重点啓発外来種	定着初期／限定分布		重点対策外来種	○	-	◎	-	○	○	-	-	○	-	○	-	渤海、黄海	和歌山市	内湾干潟	(海産)2004年2月に和歌山市和歌浦干潟で採集されたが、県下の記録はこの一例のみである。2000年代、東北地方太平洋岸で本種が大発生した時にはアサリを食害し、アサリ漁と潮干狩りに大きな被害を与えたことがあるため、本県でも警戒が必要である。	
3	異足目	オオネズミガイ	<i>Mammilla kurodai</i> I.Taki, 1943		定着初期／限定分布			-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	中国沿岸	紀伊水道	浅海細砂底	(海産)1960～2002年までの県下の採集個体は1～数個体の範囲であったのに、2004～2006年の間に128個体が確認された。本種の個体数の増加は、地球温暖化による水温上昇が起因すると想定される。	
4	新腹足目	タイワンレイシ	<i>Mancinella bufo</i> (Lamarck, 1822)		定着初期／限定分布			-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	台湾、熱帯域	紀南	浅海岩礁	(海産)本県での確認例は、田辺・串本で少数個体を確認したのが最初である。その後、2014年2月に串本で生個体70個体以上を一度に採集している。本種の分布域の拡大と個体数の増加は、地球温暖化による水温上昇が起因すると想定される。	
5	新生腹足目	スクミリンゴガイ	<i>Pomacea canaliculata</i> (Lamarck, 1819)		分布拡大～まん延		重点対策外来種	-	-	-	-	◎	-	-	◎	-	-	○	-	中南米	和歌山市～上富田町	水路、水田等	(淡水産)県内では、1981年頃、養殖員として、最初に串本に移入されたという。確認範囲では、紀の川、有田川水系周辺の水路や田圃に生息が見られ、特に有田川水系の個体は、かつて存在した養殖場に由来する個体と見られる。初夏には水田・水路溝の水面に側壁等に着生した卵塊が見られる。現在のところ、上富田町以南の紀南地方には確認されていない。	
6	新生腹足目	コモチカワツボ	<i>Pomatopyrgus antiponarium</i> (Gray, 1843)		定着初期／限定分布		その他の総合対策外来種	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	ニュージーランド	那智勝浦町粉白沿岸(ぶつづつ川)	淡水	(淡水産)1990年三重県桑名市の養魚施設で発見される。個体が小さく(4～6mm)、高い繁殖力で、カワニナと競合。これまで1道1府13県で確認されており、関西では滋賀県、京都府、兵庫県で確認されているが、本県では最近確認された。	
7	新生腹足目	ヌノメカワニナ	<i>Melanoides tuberculata</i> (Müller, 1774)		定着初期／限定分布			-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	インド	白浜町湯崎	淡水、汽水域	(淡水産)2016年7月に白浜町湯崎に流入する小河川に確認。	
8	基眼目	サカマキガイ	<i>Physa acyta</i> Draparnaud, 1805		分布拡大～まん延			-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	欧州	県内全域	市街地の水路等	(淡水産)県下での初記録は、1961年、旧笠田町であるが、1950年以前には和歌山市に分布していたと考えられる。確認事例では和歌山市や有田市の水路で生息が見られ、県下の市街地全域に生息があると推定される。	
9	基眼目	ハブタエモノアラガイ	<i>Pseudosuccinea columella</i> (Say, 1817)		定着初期／限定分布		その他の総合対策外来種	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	欧州、北米ほか	紀北	ため池、水路	(淡水産)奈良、大阪など近畿域では2000年初めに広く分布が確認されており、本県への分布もこの頃に始まったと見られる。和歌山市、かつらぎ町など紀北域のため池や海岸の打上個体から確認されている。特にかつらぎ町ではカワネジガイとともに生息するが、顕著な定着は認められない。	
10	基眼目	インドヒラマキガイ	<i>Indoplanorbis exustus</i> (Deshayes, 1832)		定着初期／限定分布			-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	○	-	東南アジア	紀北	淡水止水域	(淡水産)本県では和歌山市の海岸での打上個体を確認している。ただし、実際の活きた個体の生息地は確認に至っていない。	
11	柄眼目	オオクビキレガイ	<i>Rumina decollata</i> (Linnaeus, 1758)		定着初期／限定分布		その他の総合対策外来種	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	欧州、北米	紀南(田辺市)	畑地地表	(陸産)2001年に白浜町に漂着した個体が確認され、その後、田辺市の梅畑から生きた個体群が確認されている。分布域は極めて狭く、特定の畑地にのみ見られる。	
12	柄眼目	チャコウラナメクジ	<i>Lehmannia valentiana</i> (Férussac, 1821)		分布拡大～まん延			-	-	-	-	◎	-	-	-	-	-	○	-	スペイン	県内全域	陸産	(陸産)人家周辺の庭や菜園で確認。県下一円の人家周辺に侵入しているものと思われる。	
13	イガイ目	ムラサキイガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i> Lamarck, 1819	重点啓発外来種	分布拡大～まん延		その他の総合対策外来種	○	-	-	○	◎	○	-	-	◎	○	○	-	地中海	県内全域	海岸、内湾、港湾	(海産)県内全域の港湾に分布しているが、1980年代以前には港湾外の干潟や岩礁にも生息していた。田辺湾では1980年代後半以降激減した。全国的に港湾外での分布は退潮傾向にあるとの報告もあるが、県外での大発生時にはマガキ等を被覆して成長を遅滞させたり死滅させることが報告されており、警戒が必要である。	
14	イガイ目	ミドリイガイ	<i>Perna viridis</i> (Linnaeus, 1758)		定着初期／限定分布		その他の総合対策外来種	○	-	-	-	○	○	-	-	-	-	○	-	西太平洋～インド洋	県内全域	内湾、港湾	(海産)県下での初発見は1992年すさみ町で、それ以降和歌山市～串本町までの港湾とその周辺の岩礁で発見されている。田辺湾では2000年代以降増加したとの報告がある。	
15	イガイ目	コウロエンカワヒバリガイ	<i>Xenostrobus securis</i> (Lamarck, 1819)		定着初期／限定分布		その他の総合対策外来種	○	-	-	○	◎	○	-	-	-	-	○	-	オーストラリアとニュージーランド	和歌山市、海南市、広川町、御坊市、	内湾、河口域	(海産)県下での初記録は1979年和歌山市紀の川河口で、それ以降、和歌川河口、海南市琴の浦、広川町広川河口、西広海岸、御坊市日高川河口で発見されている。大発生時には汽水域の在来フジツボ類を被覆して死滅させることがある。	
16	イガイ目	イガイダマシ	<i>Mytilopsis salleri</i> (Récluz, 1849)		定着初期／限定分布		その他の総合対策外来種	○	-	-	○	○	○	-	-	-	-	○	-	カリブ海とメキシコ湾	和歌山市紀の川河口	内湾、河口域	(海産)県下での初記録は2000年和歌山市紀の川河口。それ以後も、和歌山市各草の浜での死殻の採集記録はあるが、生貝の確認は紀の川河口でしか報告がない。	
17	マルスダレガイ目	ウスカラシオツガイ	<i>Petricola</i> sp.		定着初期／限定分布			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	不明	和歌山市、海南市、広川町	内湾	(海産)1983年の和歌山市毛見沖での発見が本種の日本初記録である。その後和歌山市～海南市の各地と広川町西広海岸で記録されている。外来種ムラサキイガイの群生の中で見つかることが多く、在来種や産葉への影響は知られていない。	
18	マルスダレガイ目	ホンビノスガイ	<i>Mercenaria mercenaria</i> (Linnaeus, 1758)		定着初期／限定分布		その他の総合対策外来種	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	北米	和歌山市加太	潮間帯や水深15mまでの砂底や砂泥底域	(海産)2010年10月に和歌山市加太から幼個体半片を確認した。この時期、大阪湾や瀬戸内海西域では本種の定着が確認されており、これらの定着個体由来したものと思われる。	
19	マルスダレガイ目	シナハマグリ	<i>Meretrix petechialis</i> (Lamarck, 1818)		定着初期／限定分布		その他の総合対策外来種	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	中国、朝鮮半島南部	紀の川、有田川河口域	潮間帯下の細砂や砂泥底域	(海産)本邦産ハマグリ代替品として輸入された個体が由来。紀の川河口(北島橋)や有田川河口(有田大橋)周辺の汽水域で生個体の打上個体を確認。ただし、その後の定着は不明である。紀の川河口域ではハマグリとともに生個体が確認されている。愛知県ではハマグリとの交雑種と見られる個体が記録されているが、本県では未確認。	
20	マルスダレガイ目	タイワンシジミ	<i>Corbicula fluminea</i> (Müller, 1774)	重点啓発外来種	定着初期／限定分布		その他の総合対策外来種	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-	○	-	中国、朝鮮半島	紀北	水路、河川	(淡水産)中国産活きシジミとして輸入・販売されている。和歌山市郊外の水路に多産しており、これは炊事の際の洗浄、砂出しで放出された稚貝が水路に定着した結果と見られる。本種はマシジミと非常に近縁な種であり、また精子量が多いことから、マシジミの卵と交雑している可能性が高いと推定される。	